

商店街 ぶらり たんけん のれんをくぐる

ぶらりMAP

街の面白いを探して、宝探し探検のような気持ちでみんなで商店街を歩いてみました。看板やショーウィンドウも改めてみると、面白い！小さな子供たちは足元に宝物を見つけました。お店ののれんをちょっとだけ勇気を出してくぐってみると笑顔の店長さんと面白いお話が待っています。

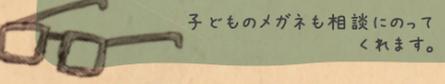
様々な時代に創業したお店があるよ！

- 江戸以前創業
- 明治大正創業
- 昭和40年以前(50年前)
- 昭和41年以降創業



メガネのサンゴウ

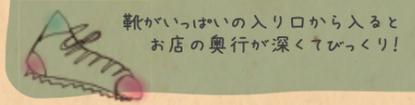
白衣のご主人のメガネ専門店
小田原で開店する前は東京の百貨店のメガネ売り場にいらしたとおっしゃるご主人。視力が同じでも、仕事や使い方によってその人にあうメガネは違うそうで、取材の間もメガネを受け取りにいらしたお客さんと丁寧にお話をさせていました。



子どものメガネも相談のってくれます。

タジマ靴化店

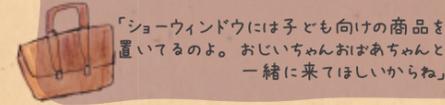
足の相談ができる靴屋さん
お客さんは年配の女性が多いのだそう。シューフィッターさんが、はき心地や足の具合にあわせて一人一人の要望にあわせて靴をすすめてくれます。



靴がっはいの入り口から入るとお店の奥行が深くてびっくり！

こうじ屋

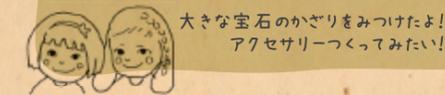
銀座通りのかばん屋さん
江戸時代から雑貨屋(ほうき、せつけん、洗面器を扱う)として開業、鞆の売れ行きがよく昭和33年から鞆屋さんに。お年寄りが多く、キャリア付きバック、ショルダーバックがよく売れるそうです。



「ショーウィンドウには子ども向けの商品も置いてるよ。おじいちゃんおばあちゃんと一緒に来てほしいからね」

|ZUm|ジュエリー

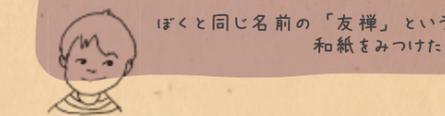
リフォーム得意なアクセサリー屋さん
まばゆいジュエリーの他、自分で作る教室もやっている。天然石のピアスもたくさん揃っていて小学生も買いに来るのだそう。店長のいずみさんはとても優しく素敵な方。女性にとってここはオアシスのような存在かも。



大きな宝石のかざりを見つけたよ！アクセサリーつくってみよう！

俵紙茶舎 江嶋

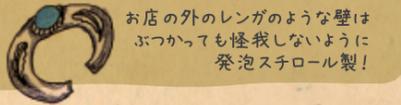
小田原の伝統的な商家の歴史を感じる寛文元年創業。その昔塩と茶を交換していたという説も。社長さんは代々「江嶋平八」という名を継いでいる。お店のおすすめはお茶と海苔。全国の和紙もある。店の奥には江戸時代の財産台帳などがあります。



ぼくと同じ名前の「友禅」という和紙を見つけた！

ビスケット

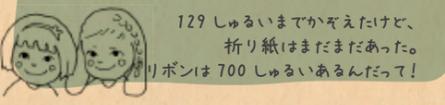
天然石と銀のアクセサリ
25年くらい前からやっている、天然石と銀のオリジナルアクセサリのお店。最近は一歩落ちないゴールドフィールドというメッキの商品も。幅広い年齢層のアクセサリ好きの人が訪れます。



お店の外のレンガのような壁はぶつつかっても怪我しないように発泡スチロール製！

石見屋

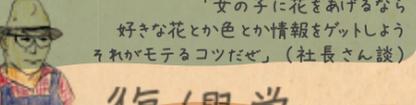
数えきれないくらいの折り紙とリボン
先代は島根県石見市(いわみ)のご出身。でも店名はしみやと読む。お客さんからの要望に応じて取扱商品が増え、文化祭やバザー等に欠かせない文具や紙でいっぱい。子どもたちは特に折り紙に夢中でした。



129しゅるいまでかきえたいけど、折り紙はまだまだあった。リボンは700しゅるいあるんだって！

古屋花店

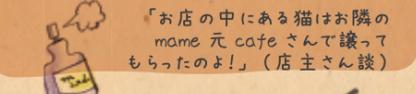
花は愛のメッセンジャー
テナロンハットのやさしくてかっこいい社長さんは湘南ベルマーレフットサルチームのえらい人！店内の大きな冷蔵庫は一年中14℃。だから冬は中の方が暖かい。ハウス栽培の花が多い季節は、外で育てられる枝もので四季を感じられるようにアレンジするそう！



「女の子に花をあげるなら好きな花とか色とか情報をゲットしようそれがモテるコツだぜ」(社長さん談)

復興堂

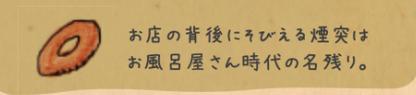
商品だけじゃない化粧品屋さん
大正時代の関東大震災で、商品を道行く人に配り、それを見た僧侶が、まちが復興するように、復興堂と名付けて今の店名に。エステ、ハンドマッサージなど、ワンコイン以下で提供。商品も売らなくても技術で要望をかなえてあげたいとのこと。お試しコーナー充実しています！



「お店の中にある猫はお隣のmame元cafeさんで譲ってもらったのよ！」(店主さん談)

mame元café

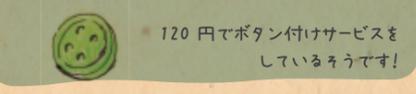
お豆腐屋さんのほっこりカフェ
木のぬくもりあふれる店内で、おいしくてからだによいものをいただける。カフェで楽しむだけでなく、豆腐、豆乳おからの焼ドーナツや、野菜、雑貨など、近隣のいいものをいろいろ売っているのとお土産にもいいかも。



お店の背後にそびえる煙突はお風呂屋さん時代の名残り。

中戸川ボタン店

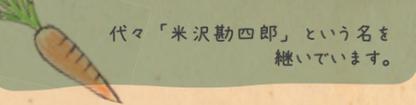
いろんなボタンがずらりと並ぶ専門店
一言にボタンといっても、その素材は、貝、樹脂、ポリエステル、ナイロン、カゼインなどいろいろで見飽きません。店内にはボタンホイールを作るための機械があり、出来上がりの見栄えが全然違うのだとか。奥深さにびっくり。



120円でボタン付けサービスをしているそうです！

八百八商店

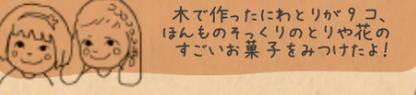
街の歴史を知る八百屋さん
昔は乾物(数の子、小豆など)を扱っていたお店。小田原に居られた「開院宮さま」に配達をしていた時に関東大震災にあったのだそう。今は学校給食への配達メイン、お盆や暮れなどの仏さんへあげるものはよく売れる。



代々「米沢勘四郎」という名を継いでいます。

栄町松坂屋

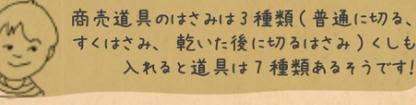
ここでしか買えないコケッコ。
「店を大きくするより、いい物を作る」という創業者の意志を貫いてここだけで商売をしている。おすすめは神奈川県指定銘菓コケッコ。卵の形で寒天と卵白でできたやさしい味わい。店の奥にある看板の文字は、新宿中村屋、千足屋の看板の文字を書いた「中村不折」の書。



木で作ったにわとりが？コ、ほんものそっくりのとりや花のすくいお菓子を見つけたよ！

ファンシーヘアー

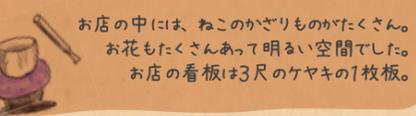
イラストのような外観のおしゃれなヘアサロン
3年前にできた新しいお店。直接ドアノブが描かれたドアが気になって思わず入ってみると、中は古い建物の屋根をそのまま使ったおしゃれな空間！かっこいい店長とスタッフさんがそれぞれの人にあった髪型を考えてくれます。



商売道具のほさみは3種類(普通に切る、すくほさみ、乾いた後に切るほさみ)くしも入ると道具は7種類あるそうです！

ストウ商店

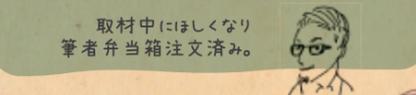
小田原の昔の話をたくさん聞ける仏具屋さん
元土族。明治時代葬祭業(仏具)を始め、関東大震災後現地に移動。人生の終わりを大切にしたいとご主人。葬祭業としては小田原最古参、街の歴史をみつめてこられた。



お店の中には、ねこのかざりものやたくさんのお花もたくさんあって明るい空間でした。お店の看板は3尺のケヤキの1枚板。

岩政

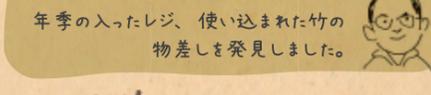
若い人にもおすすめの竹製品屋さん
今は亡きご主人と始めた店。「もう50〜60年やってるから、今は楽しみでやってるから！」と奥さんは少しだけ笑う。全国各地の職人さんから届く竹製品の数々、川魚を入れる魚籠(びく)や鰻取り用のもじりから藤のバッグ、小半型弁当箱、小物など生活に寄り添ったものまで各種色々。



取材中にはしくなり筆者弁当箱注文済み。

小田原リフォーム

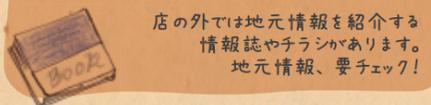
服を大切に長く着るためのお店
仕立て直し、肩幅、裏地替えなど、愛着のある服を直して長く着られるよう、洋服のリフォームの相談に乗ってくれます。昭和55年ごろの開業。背広や制服のサイズ変え、フレアスカートやタイトスカートなどに形の変更の相談にも応じてくれるそうです。



年季の入ったレジ、使い込まれた竹の物差しを発見しました。

積善堂平井書店

街を動かす活動する本屋さん
小田原の郷土本が豊富に揃う平井書店。商店街で落語会(柳家花緑など)を定期的に開催するため落語関係の書籍、病院が近い「食事制限」に関する本などが充実。駐車場を使って朝市も開催する、動き続ける本屋さん。



店の外では地元情報を紹介する情報誌やチラシがあります。地元情報、要チェック！

才造関庫

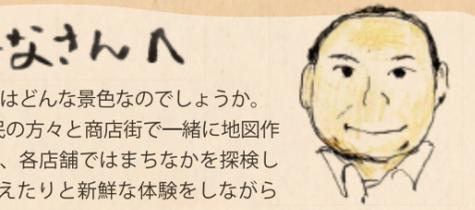
静かに熱い鉄道模型店
扉を開けると、NゲージとHOゲージという精巧で美しい鉄道模型が静かに並んでいる。昭和31年まで小田原で走っていた路面電車の操車場で鉄道の世界に興味を持ったとおっしゃるご主人。模型が好きな鉄ちゃんには、ぜひお店に足を運んでみてください。



冷やかしかはご遠慮ください 鉄道ファン大歓迎！

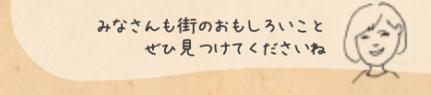
商店街 かみなさん

店の中からとは違う視線からみた「商店街」はどんな景色なのでしょう。今回初めての試みとして、小田原に住む市民の方々と商店街と一緒に地図作りを行いました。商店街の役員も頭をひねり、各店舗ではまちなかを探検した子どもさんからの鋭いインタビューに答えたりと新鮮な体験をしながら「ぶらっと街中を探検するためのマップ・友達が小田原に来たとき案内できるマップ」ができあがり。このマップを手には、ほのぼのとしたショートトリップを楽しんでいただければ光栄です。お時間あれば、是非、個性的な店主とお話くださいませ。(ほっとファイブタウン代表・平井書店店長・平井義人)



まちあるき二ぼれ話

普段歩きなれている商店街、見回してみたら面白い発見がたくさんありました。
●歴史のあるお店が多くてびっくり。同じ屋号(店名)でも、昔は今と違う商品を扱っていたというお話も多数伺いました。時代とともに変化しているんですね。
●こうじ屋さん、タジマ靴店さんのある、通称「病院通り」は近くにいくつも病院がありお年寄りがよく通るので、お年寄りに向けた品揃えがなされています。
●郵便局の隣の路地を入ると、奥に細い階段。進んでいくとお塚通りに抜ける小さな道が。実は歴史的な小田原城幸田口門跡・三の丸土塁跡。大きなイチョウと猫たちが迎えてくれます。



みなさんも街のおもしろいことぜひ見つけてくださいね

(店名・イラスト：まちあるきワークショップチーム)